

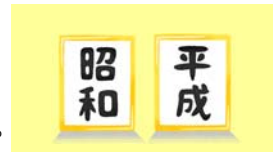


時は流れ



いよいよ“平成”ラストの1ヶ月・・・このコラムがアップされる頃には、新しい元号が公表されているはず。テレビのクイズ番組でもやっていたが、略称を考慮して、M（明治）、T（大正）、S（昭和）、H（平成）が被らない元号らしい。この機会、せっかくなので、元号について調べてみた。その中で、目に止まったものをいくつか書いてみようと思う。

元号について



① “昭和”と“平成”の狭間にこんなエピソードがあった。

「甥っ子（姉の子供）が1989年 昭和64年1月7日生まれ。同級生に誕生日を告げると、昭和64年ってあるの？と疑われたそう。また、姉が子供を産んだとき、病院にマスコミが来たが、1月8日生まれの人だけ取材されて、昭和に産んだ姉は無視されたいらしい。分娩をあと1時間半我慢すれば平成に誕生だったので、凄く残念がっていた。」

7日しか存在しない昭和64年、それも最後の日に誕生というのは超レアだと思います。



② 元号はいつから存在するのか。

飛鳥時代の“大化”（645年～650年）

孝徳天皇が、「天下安寧を願い、大化の改新を進めていくため」に“大化”という元号を用いたことが始まり。それ以降、天皇90代に対して、247もの元号が存在。一代の天皇で8つの元号が存在するという記録もあるらしい。天皇在位中、元号が変更できない『一世一元』制度は、明治以降のこと。ちなみに、最も短かった元号は、鎌倉時代の“暦仁”（りやくにん）で、74日。

最も長いのは“昭和”

そもそも元号とは、紀年法と呼ばれる、年を数えたり、記録する方法の一種で、和暦と呼ばれることもあります。

③ スッポンが元号を変えた。

天災などの災いが元号を変える理由として最も多かった。しかし、奈良時代、甲羅に「北斗七星」の模様がある珍しいスッポンが天皇に献上され、「これは天から授かった吉兆である」と喜ばれた天皇が元号を“靈龜”（れいき）に改めたとのこと。奈良時代は、亀にちなんで、“神龜”“宝龜”と言う元号もある。亀が縁起物だったらしい。

奈良時代には、4文字の元号もあります。

天平感宝, 天平勝宝, 天平宝字, 天平神護, 神護景雲





④ くじ引きで元号が決まった “明治”

宮中賢所（かしどころ）において、いくつかの元号候補の中から、明治天皇がくじをお引きになってご選出。もちろん、我々が想像するくじ引きではなく、当時は神の意思を問うための重大な神事として、厳粛な中で行われたそう。

どんなクジ引きだったかは、わかりません。



⑤ “昭和” が決まったときは、日本中に衝撃が走った。

大正時代、“照” という漢字は誰もが知っていたが、そこから “点” を取った “昭” を知る人はほとんどいなかったらしい。

それ以前に、元号にまつわる大誤報事件発生!! 知る人ぞ知る『“光文” 事件』
こんな事件があったんですね。 ⇒検索してみてください。



⑥ そもそも

元号制度発祥の地は **中国** で、紀元前に誕生。以降ベトナムや朝鮮半島なども元号を取り入れた時期があったようだが、現在「元号制度」を採用している国は **日本のみ**。

第二次世界大戦に敗れた日本は、1945 年 ((昭和 20 年)) をもって 昭和 をやめ、新たに 新日本 と改元して永年にすべきと主張する人と、元号を廃止して西暦だけで良いと主張する人が熱くぶつかったとのこと。ですが、結局元号は、「国民にも浸透していて、廃止する理由がない。」ということから廃止されなかったそうなんです。

私が思う元号制度

元号制度があるおかげで、『昭和歌謡』『平成のアイドル』と言ったように、「昭和の時代は…」とか「平成の時代は…」など、元号を節目にその時代を振り返ることができる。「あ～あの頃は良かったなあ」と切なくなる事もあるが、その時代を象徴するものも生まれ、例えば、「昭和を感じさせるあの町並みはやっぱり落ち着いたなあ」など、昔を懐かしめることは、心も豊かにする、ありがたい制度だと思う。

…とは言うものの、1967 年生まれのわたし。昭和、平成、・・・3 元号を跨ぐのかと思うと、急に歳をとったような、何とも言えない気分にもなる。まあ、既に歳はとっているのだが。。

時は流れるもの。。

春 新しいスタート



平成 31 年 4 月

3 / 4

さて、**心さわぐ春**



新社会人、新入生のみなさま、新しい人生のスタートおめでとうございます。

わたしが新しい人生のスタートをきったのは、かれこれ 35 年前。いわゆる、バブル期突入の昭和 61 年（1986 年）。あっ、35 年の間にも、色んな意味で新しいスタートを何度かきっているのだが、それはそれとして棚にあげておこう（笑）

新と付く方々のために、昭和～平成を懐かしみ、わたしの経験を少し書いてみようと思う。

18 歳、**社会人スタート**



高校を卒業して某企業に就職。同期は 30～40 人くらい居たかもしれない。（前職のはなし）

朝 8 時、だっだ広い駐車場で全社員ラジオ体操第一。突然、「〇〇！（旧姓）前を出ろ！」と怒鳴られて、社員の前にさらされるわたし。『またか…（汗）』当時、ラジオ体操なんてダサくてやってられないと、ふざけた態度に他部署の課長に目を付けられ、何度も怒鳴られた。直属の上司からは「〇〇、頼むからもう少し真面目にやってくれんか。」と苦笑される始末。こんな感じの社会人スタート。

それでも、そんなふざけた私を良き社会人に導いてくれたのは、苦笑する直属の上司だった。

正直、何をどう言うふうに指導されたかは、全く覚えていない。

今思えば、遠からず近からずの程良い距離で接してくれていたのだろうと思う。感謝。

ラジオ体操ごときで怒鳴られても、全く気にしていなかった。（反抗期か？）一番嫌なタイプの新入社員。浮かれ立っていたその当時、毎日が楽しくて楽しくて仕方なかった。何が楽しかったのか？…仕事？…ではない。**“遊び”**だ。

仕事が終わって、同じ課の先輩方と遊びに繰り出し、朝まで騒いで、そのまま出勤。今では考えられない生活だが、とにかく楽しかった。当時、湯田温泉に「恋の散歩道」と言うディスコがあった。

『**コイサン行くぞ！**』まさに平野ノラちゃんの乗り。ディスコと言う響きがなつかしい。



仕事が終わったらみんなで遊べると思うと、必然的に仕事も必死にやっていた。入社当時、17 時までかかっていた仕事が、数ヶ月もしないうちに、お昼には終えるようになっていた。今思い出しても、すごい効率化である。午後の仕事は自分で考えて作った。時に現場も手伝った。自分で言うのもなんだが、仕事も遊びも“出来る人”になっていた。

「残業になったら遊びに行けない！」そんな浅はかな考えの毎日だったが、試行錯誤しながらも自分の働き方や遊び方を確立し、楽しんでいた私。あっぱれ！

新社会人、新入生のみなさん、理由は何であれ、**目標**は大切です。

春 新しいスタート



平成 31 年 4 月

4 / 4

落成式実行委員【2001.4.5 撮影】



最後に、

宇部建、平成時代の「歴史のいちページ」を載せさせていただき、終わりにしようと思う。

・・・4月と言うと、わたしは必ず思い出すことがある。
平成13年(2001年)4月29日 わが社の新社屋落成式だ。
ありがたいことに、このおめでたい行事の運営責任者をさせてもらった。なので、この社屋には人一倍思い入れがある。

式典はもちろん、立食パーティー、子供屋台、手作り鍋、ピアノコンサート、宇部建の歴史スライド上映会など、社員みんなで取り組んで色々な企画を催した。何をやるにも社員一丸となって取り組む姿勢は今も変わらない。我社の自慢のひとつである。

宇部建 平成のおもいで ～社屋ができるまで～

【2000.11.10 撮影】



【2000.12.11 撮影】



【2001. 2. 18 撮影】



【2001. 3. 26 撮影】



【2001. 4. 20 撮影】

